

渋谷区立松濤美術館

開館記念特別展

森 芳雄

開館記念特別陳列

菱田春草

サロン・ミューゼ

渋谷区在住作家の作品

会期 = 昭和56年10月1日(木) - 11月7日(土)

会場 = 松濤美術館

あいさつ

美術館が、区民の美意識創造の場となることを望むのは、当然のことではありますが、この美術館は、小規模ながら、文化的情緒の豊かさと、落ち着いた雰囲気求めて、そこに区民が楽しみ、憩いの場となるようにしたいと考えました。幸い建物はその意図を満たし、建物の何処に位置しても、飽くことのない魅力に、導かれるものとなったと思います。

この美術館は、美術品の収集を積極的には行わないところから、展覧事業の運営には苦労があると思いますが、努めて渋谷区の地縁性を求め、例えば、在住する、或いはしたことがある美術家の作品展や、名家の収蔵品展、児童生徒の作品展などを企画し、また文化事業にも、創ることの楽しさ、厳しさ、尊さというものを学ぶために区内美術家の御協力を得て、区民のための実技指導の教室や、指導、助言のための相談室を設けるなどいたし、なおあわせて、広く美術に対し区民が求める展覧会や、美術一般についての理解、把握を助けるための諸活動を、加えたいものと考えております。

関係した多くの方々のお理解と、御協力をいただき、ここに開館の運びとなりましたことを、皆様と共に喜ぶたいと思います。

区民の美術館として、皆様方がいよいよ関心を寄せていただき、この美術館に気軽に足を運ばれ、より理解を深めて下さるようお願いいたします。

また開館にあたり、記念特別展の企画をお認め下さいました、わが国洋画界屈指の存在であられ、永年渋谷にお住みになる森芳雄先生の御熱心な御協力と同特別展および特別陳列菱田春草に示された公私美術館、所蔵者各位の寛大な御好意と関係者の御尽力、ならびにサロンミューゼへの御出品を御快諾下さいました渋谷区在住作家の方々のおたのしみ御気持にたいし、深い感謝の意を表し、今後なお一層のお力添えをお願い申し上げます。

渋谷区長 天野房三

## 森芳雄さんの絵

森芳雄さんの絵を、ここに出ている初期の「肱つく女」の頃から私は非常に高く評価していました。この時期は、ヨーロッパやアメリカや日本でも、抽象絵画が次第に盛んになってきつつあった時代で、具象絵画の新しい方向をどう打開していくか、そのことが各国の画壇の最も重要な課題になっている時でありました。そういう時期に、フランスから帰ってきた森芳雄さんがこの「肱つく女」を発表したのです。私は具象絵画の新しい開拓者の有力な一人として、この画家を注目していたわけです。その後の森さんの制作の道程はその線に添って私たちの期待を裏切ることなく、次第に充実し展開してきていることはこの展覧をご覧になる方々のひとしくお感じになることかと信じます。

森さんは生涯一本の道を歩んできた、そうすることしか出来ない画家であります。近作の裸婦像でも母子像でも、そこに構図などにさまざまな研究や工夫の痕は見られますが、作情の根本にあつては一本の道です。風景や静物の作品などにも同じことが言えましょう。その作情を一口に言えば雅朴混淆といった感じのもののように思います。その根本のところでは絵に少しも紛飾の気配のないことが見事です。雅朴混淆などと、ありきたりの文句を書きましたが、要はその絵に何の紛飾の気配もないということは稀有なことです。森芳雄さんの作情の場合は、極く自然に表現上の紛飾を避けているように思います。表現の焦点を単一に絞り、その焦点に向ってまっすぐに筆を進めてゆくだけです。しかも、そこに一脈の詩魂が流れていることを見逃すわけにはいきません。あらゆる場合の詩情とか詩魂というようなものは何とも不思議といえは不思議な存在で、なそうと思っても出来るものではなく、隠そうと思っても隠せるものではないようです。この画家の場合も、その詩情といったものを、むしろ直接に露わにしないように抑えようとしているかに思われるのですが、それでも隠そうとしている双の手の指の間から、それがこぼれ落ちるのでありましょう。そのことを私は雅朴混淆という文句で言おうとしたつもりです。

(カタログ所収、今泉篤男「森芳雄さんの絵」より抄録)

## 菱田春草と代々木

菱田春草は、日本絵画史の上に不朽の名をとどめているが、その一生は38歳で終わっているから驚くほかはない。しかもその偉業たる日本画の近代化は、貧苦のうちに心身を投げ打ち、一步も引かずに精進したところに成立した。そしてそれによる傑作が「落葉」と「黒き猫」であるが、この二作は代々木とのゆかりの上に描かれた。したがって凡そ春草の芸術を愛する者にとって、代々木の地は鮮烈に印象づけられているにちがいないが、いまここに、渋谷区立松涛美術館が開館されるに当り、春草の作品を区民のために展示されることは、まことに当をえたことに思われる。

春草の芸術は、貧苦に明け暮れる中での所産であった。明治41年五浦より移り代々木に仮寓していたが、明治44年漸くにして幾分の余裕を生じ、待望していた家も新築され、そこに転居することができたのであるが、病気は再び悪化し、もはや筆をとることは不可能になってしまった。なんたる天の無情、春草はこの年9月16日38歳をもって遂に不帰の客になってしまったのである。

---

### 森芳雄 略歴

- 明治41年(1908)12月21日、東京・麻布に生まれる  
大正14年(1925)17歳 白滝幾之助にデッサンの指導を受ける  
大正15年(1926)18歳 慶応義塾普通部修了 本郷絵画研究所に通う  
昭和3年(1928)20歳 1930年協会洋画研究所に入所・中山巍の指導を受ける  
昭和4年(1929)21歳 第4回1930年協会展に初入選  
昭和6年(1931)23歳 第1回独立美術協会展に入選 渡仏  
昭和9年(1934)26歳 帰国  
昭和11年(1936)28歳 第6回独立美術協会展に入選 「D賞」を受賞  
昭和12年(1937)29歳 独立美術協会会友に推挙される  
昭和14年(1939)31歳 第3回自由美術家協会展に入選、会員に推挙される このころ独立美術協会を退会  
昭和26年(1951)43歳 武蔵野美術学校教師となる  
昭和27年(1952)44歳 第1回平和美術展に出品  
昭和39年(1964)56歳 自由美術家協会退会、主体美術協会を結成、会員となる  
昭和50年(1975)67歳 渋谷・東急本店で森芳雄展開催

## 菱田春草 略歴

- 明治7年(1874) 1歳 9月21日長野県下伊那郡飯田町生、本名は三男治
- 明治22年(1889) 16歳 9月上京、結城正明に狩野派画風を学ぶ
- 明治23年(1890) 17歳 9月東京美術学校入学
- 明治26年(1893) 20歳 学生試験作品「秋景山水」
- 明治28年(1895) 22歳 7月東京美術学校卒業(第二回)卒業制作「寡婦と孤児」、帝国博物館嘱託として、京都・奈良古社寺の古画模写
- 明治29年(1896) 23歳 11月東京美術学校絵画科教員に嘱託さる
- 明治31年(1898) 25歳 3月 校長岡倉天心に従い同校辞任 7月 岡倉天心・橋本雅邦らの日本美術院創立に参加
- 明治34年(1901) 28歳 第十回絵画共進会「釣婦」銅牌「雨後」
- 明治35年(1902) 29歳 9月 日本絵画協会幹事・評議員 「紅葉」「春の朝」
- 明治36年(1903) 30歳 1月 大観と渡印
- 明治37年(1904) 31歳 2月 天心・大観らと渡米、ヨーロッパを経て翌年帰国
- 明治39年(1906) 33歳 11月 日本美術院第一部(絵画部門)を茨城県五浦に移す
- 明治40年(1907) 34歳 国画玉成会結成に参加
- 明治41年(1908) 35歳 6月 病気診療のため東京代々木に仮寓
- 明治43年(1910) 37歳 9月 文部省美術審査員「月下牧童」
- 明治44年(1911) 38歳 6月 代々木の新居に移転 9月16日 病勢急変して逝去

## サロン・ミューゼ出品作家略歴 50音順

### 大久保 泰

- 明治38年(1905) 愛知県豊橋市に生まれる
- 昭和3年(1928) 早稲田大学商学部卒業 野口弥太郎・児島善三郎に学ぶ
- 現在=独立美術協会会員

### 大森啓助

- 明治31年(1898) 兵庫県神戸市に生まれる
- 大正9年 関西学院高等部卒業 川端画学校で学ぶ
- 現在=国画会会員

### 清原啓一

- 昭和2年(1927) 富山県砺波市に生まれる
- 昭和27年(1952) 明治大学卒業 辻永に学ぶ
- 現在=光風会会員 日展会員

### 児玉幸雄

- 大正5年(1916) 大阪市に生まれる
- 昭和14年(1939) 関西学院大学卒業
- 現在=二紀会会員

### 近岡善次郎

- 大正3年(1914) 山形県新庄市に生まれる
- 昭和8年(1933) 文化学院美術部卒業 石井柏亭・有島生馬・山下新太郎に学ぶ
- 現在=一水会会員

### 堀内正和

- 明治44年(1911) 京都市に生まれる
- 昭和4年(1929) 東京高等工芸学校彫刻部を中退、二科会の研究所(番衆技塾)に入り、藤川勇造に師事する
- 現在=二科会会員

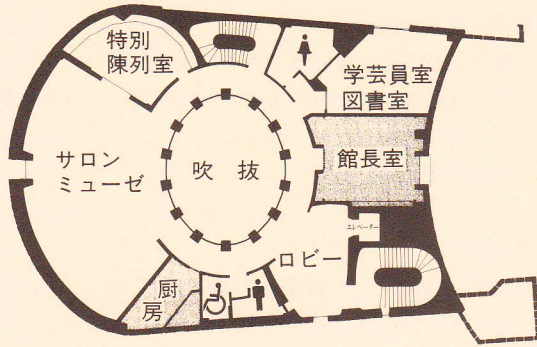
### 村田勝四郎

- 明治34年(1901) 大阪市に生まれる
- 昭和1年(1926) 東京美術学校彫刻科卒業 北村西望に師事、ひきつづき研究科に入り朝倉文夫に師事
- 現在=新制作協会会員

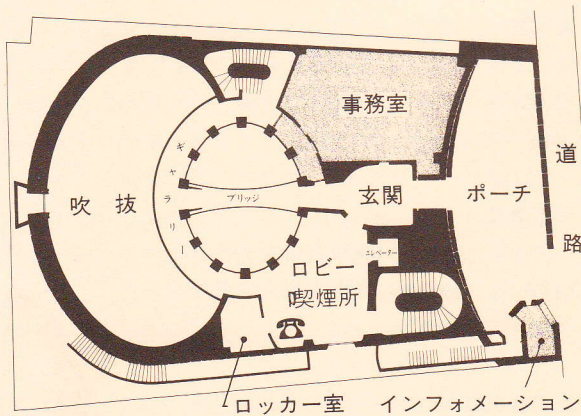
### 協田愛二郎

- 昭和17年(1942) 東京に生まれる
- 昭和39年(1964) 武蔵野美術大学卒業
- 昭和40年(1965) ニューヨーク、ブルックリン・アート・ミュージアムに学ぶ
- 無所属

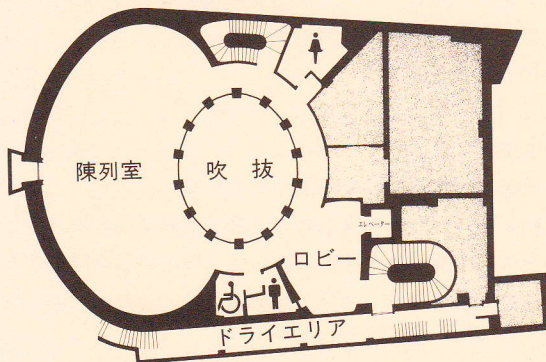
## 松瀧美術館・平面図



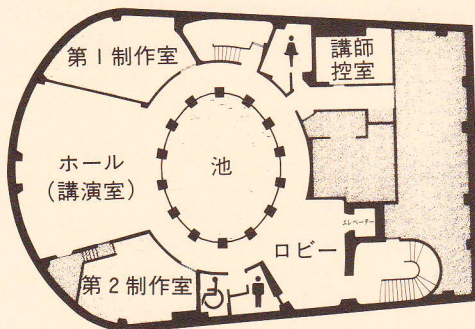
2F=2階



1F=1階



B1=地下1階



B2=地下2階

**開館時間** 午前9時～午後5時(ただし、入館は4時30分まで)

**休館日** 毎週月曜日(ただし、第2週のみ日曜日)  
祝日の翌日及び年末年始(12月29日～1月3日)

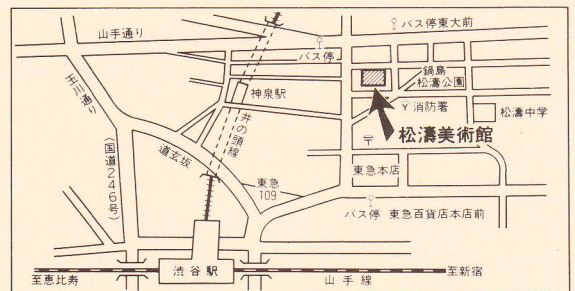
**入館料**

	個人	団体(20人以上)
一般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

**お願い**

- 陳列品には手を触れないでください。
- 館内では万年筆、筆などを使用しないでください。
- 写真撮影や模写はご遠慮ください。
- 手荷物は1階ロビーのロッカー(無料)にお預けください。
- 動物や危険物は持ち込まないでください。
- 煙草は1階ロビー以外ではご遠慮ください。
- 下駄ばきの方は受付窓口にお申し出になり、スリッパにおはきかえください。
- 他の入館者の迷惑にならないように静かにご覧ください。

**案内図**



**交通案内**

- 山手線 渋谷駅下車——徒歩10分
- 井の頭線 神泉駅下車——徒歩5分
- 東急バス (渋谷駅⇔幡ヶ谷折返し所)東大前下車——徒歩2分
- 東急バス (初台駅→渋谷駅)東急百貨店本店前下車——徒歩5分
- 京王バス (阿佐ヶ谷駅→渋谷駅)東急百貨店本店前下車 徒歩5分

※駐車場は、当館、付近にもございません。